

# 自然とつながる家づくり

住宅建築の分野で近年、関心が高まっているのが「パッシブデザイン」という考え方や建築手法です。これは風や日光といった自然の力を取り入れることで、エアコンなどの機器をなるべく使わずに快適な住環境を実現し、省エネルギーに寄与しようとするものです。

福岡市で工務建築士事務所を営む江藤真理子さんは、パッシブデザインを取り入れた家を積極的に手掛けています。江藤さんによると、例えば夏の暑さをしのぐには風の利用が有効ですが、立地条件によって吹き方は変わります。それをよく調べて窓の種類や配置などを考えていきます。風だけでなく日の差し方や雨の降り方はどうが、敷地の周囲はどんな環境なのか…。そういった要素に応じて二軒二軒、暑えを見つけていくのがパッシブデザインの特徴です。江藤さんは「これを、「自然とつながる家づくり」と表現します。庭に落葉樹を植えると夏は葉で日光が遮られ、葉が落ちた冬には日が家に向き注ぐといった工夫もその一つです。

江藤さんは言います、「環境に負担をかけない暮らし」といっても、住む人が我慢しなければならぬのでは使ってもおもしろくない。快適性を置いておぼろりにはできません。環境の負担も人の負担も少なくしなければいけないのです。住宅の消費エネルギーを抑え、必要最小限のエネルギーを創エネルギーで自給する。その先に見えるのは化石燃料に頼らない、持続可能な社会です。パッシブデザインは、スマートライフへの一つの選択肢を提供してあげようというものです。

自然要素の利用の仕方

	夏	中間期	冬
太陽熱	取得	←→	取得
太陽光	取得	取得	取得
自然風	取得 (涼風、涼感)	取得 (涼感)	取得
雨	取得 (水熱)	←→	取得 (水熱)

快適環境に近づける様式図



【資料】京(そら)設計工房